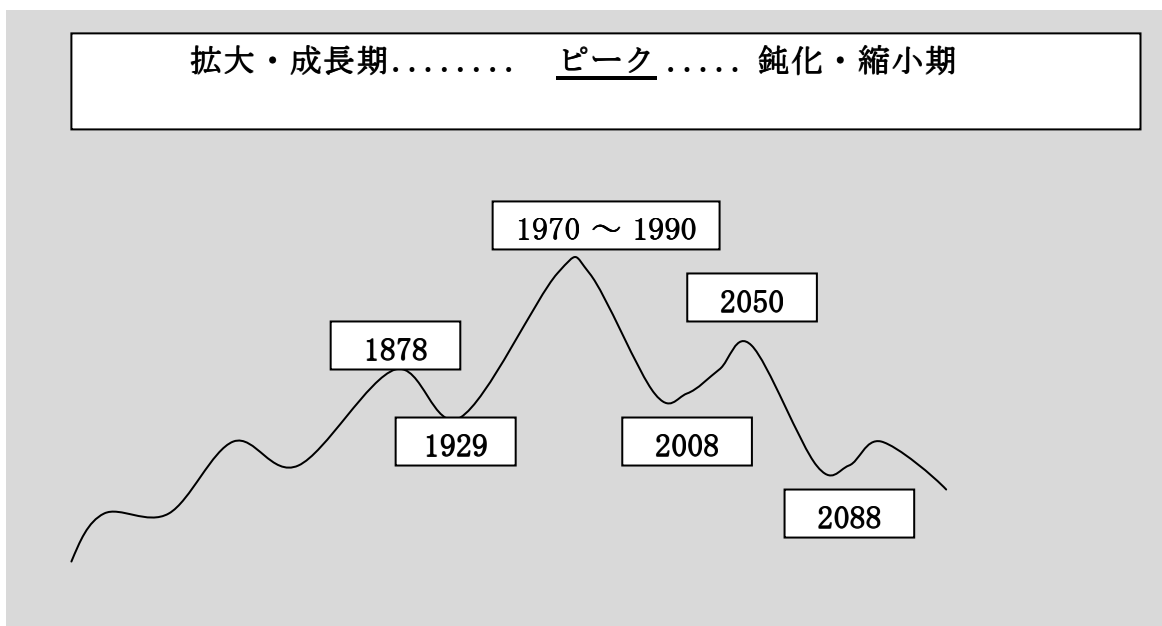


縮小社会とは？（資本主義社会の終焉と蜘蛛の糸）

中西 香

- 1、 拡大・成長社会（18世紀～20世紀の資本主義時代）の反動・反作用として起こる社会。資本主義の衰退から崩壊に至る時代の社会であり、次の二つの時期に分けられる。
 - 21世紀前半：資本主義衰退期… 縮小化社会
 - 21世紀後半：資本主義崩壊期… 縮小社会
(別名 sustainable society)
- 2、 資本主義は、経済的には1970年、政治的には1990年ピーク（頂点）を迎えた。資本主義は、このピークから約100年近くをかけて下り坂を転げ落ちていき、次の恐慌（2088年）が決定打となり21世紀末までには崩壊する。



- 3、 縮小化社会では、経済規模はじめ、物の値段、利潤、付加価値、賃金などすべてが一斉に下がる。すなわち縮小していく。デフレ時代である。このデフレ時代は1990年から始まりすでに20年を経過しているが、さらに20～30年間は続く。
「縮小化時代」は、いつまでも富をむさぼることが困難になってきた先進諸国の憂鬱を端的に表現している。一方、BRIC'Sなど次期覇権国にとっては全く逆の「成長時代」に他ならない。（M-4参照）

4、世界が21世紀に逆回転（縮小化）する必然性

- (1) 資本主義拡大・成長の源泉は、化石燃料とそれを活用する科学技術の発展であった。化石燃料の枯渇（2040～50年）は「成長」の前提を決定的に崩す。
- (2) 「成長」はCO₂増加を益々深刻化させ、いまや50%以上のCO₂削減なしには人類の生存維持が不可能となっている。「成長」の抑制どころではない。
- (3) 巨大化する90億人の人口（2050年推定）が人類にとって大きなプレッシャーとなり、PER HEADで観た人類の生活規模の縮小を迫る。

5、世界は、縮小化に向けて、スムーズに移行できる訳ではない。

21世紀前半の過渡期の世界は、資本主義がもたらした負の遺産に悩まされ、苦しめられ続ける。これを克服できるかどうかの極限ギリギリの事態に陥っていく。たとえば、下記(3)のごとき巨大災害RISKは年々高まる。それでも人類の目が覚めるかどうかは不明。ただし、世界中の人々が震え上がるような恐怖感を味わう事だけは間違いない。それは、まさに人類の生存そのものに対する根源的な恐怖感である。

- (1) 長期にわたり染み付いた資本主義の強欲は人々の精神と人間性を治癒困難なレベルにまで侵している。巨大資本は投機を狙い、国々のエゴも食料・資源をめぐる益々深刻化するだろう。
- (2) 資本は益々強欲に走る。飽食になれた人々は生活レベルを下げることに同意はしない。従って成長志向は、容易に止まらない。原発を導入・拡大してでもエネルギー確保して成長を求めるため、人類破滅のRISKは高まる。
- (3) 温暖化にもかかわらず国々のエゴのぶつかり合いは收拾がつかず、ヒートアイランド化や地球生命絶滅の危機は、年々現実化する。このまま行くと、21世紀半ば前後に世界の海水面が数メートル上昇、海に面した東京・ニューヨークなどの巨大都市や原子力発電所が深刻な被害を被る恐れがある。
- (4) 世界的な弱肉強食はきわまり、強者による強制淘汰は進む。弱者は、表向きは別として、実質的には省みられず、打ち捨てられる。彼らの怒りは極度に高まる。
- (5) 世界は先進国とBRICSの利害が対立し、力が拮抗しているため百家争鳴状態に陥り、重要懸案になればなるほど收拾がつかない。

6、もし人類が生存を維持できる可能性を極限下で必死に追い求めるとすると、それは「生存維持を最優先する社会構造」構築以外にはない。

この社会はRISK回避のためにも、分散化・縮小化され、自立した自給自足の農村型リサイクル社会だ。また、富の平均化など世界的規制も進む。そして人々の行動原理は成長（GNP）から生存維持・共存（GNH）に移っていく。 以上

縮小社会が目指すものは何か？

時代定義		資本主義 拡大時代	資本主義 衰退時代	サステナブル時代
どういう社会？		拡大する社会	縮小化時代（過渡期）	縮小社会
時期		1700～1990年	21世紀前半	21世紀後半
生産手段 生産関係 商品	大工場集中・私的独占 株式会社 大規模・世界市場経済	独占化と無政府状態。 恐慌でさらに疲弊 市場縮小化		小規模、分散化 協同組合 自給自足・小市場
社会関係・政治 経済成長	階級分裂（搾取） 支配、覇権・戦争 世界規模の貧富の差 常に必要	金持本位のゆがんだ社会 国家財政破綻 デフレで先進国生活破綻 長期停滞		協調型直接民主主義 世界政府権力 貧富差の少ない社会 必要としない
科学・工業の目的 教育の目的 社会の目的	工業発展・金儲け 金儲け・立身出世 利己・個人の繁栄	鼻持ちならなくなる 、、 、、		人類の生存維持・ 共存型社会（小規模 コミュニティー）
資源エネルギー 労働	工業化と巨大浪費 商品化	枯渇・独占化 首切り・賃金カット横行		資源循環リサイクル 自家労働・社会維持 のための労働
生活 基盤	水 電力・ガス 食料・日用品 空気 ごみ 生活拠点 RISK対応	水道 巨大発電 商品経済に依存 CO2充満 大量廃棄 都会中心・長時間通勤 統合・集中化	汚濁、水不足 資源枯渇・原発RISK 食の安全リスク 温暖化・生物絶滅の危機 都会ヒートアイランド化 巨大災害化	井戸・雨水 太陽光など自家発電 自家生産・フリマ 緑化・自然空調 リサイクル・飼料化 農村中心・通勤なし 分散・自立型社会
人類の生存環境 医療 人類の運命	核・原発・公害・ CO2・健康被害 対症療法 差別・強欲・物質的 幸せ求めアリ地獄	悪化 金持ち本位・医療崩壊 2050年極限人口90 億人		自然回復・健康家族 共存型社会 医療・教育・福祉無 料化 世界民主主義